

御嶽山噴火に伴う牧尾ダム試験放流の結果と 今後の運用について

平成26年12月25日

水資源機構中部支社

牧尾ダムからの白濁物質抑制対策の状況

- ◇ 牧尾ダムの湖底に沈降している火山灰を含む白濁物質の流出を抑制するため、牧尾ダム湖底の取水口前面に、汚濁防止膜を設置。

記者発表資料

御嶽山噴火に伴う牧尾ダム白濁物質流出抑制対策工事の実施について

独立行政法人水資源機構が管理している牧尾ダムでは、御嶽山噴火に伴う白濁物質（噴出物）が牧尾ダム貯水池の湖底に沈降している状況にあります。

これに対し、12月8日に開催されました「御嶽山噴火に伴う木曾川上流域水質保全対策検討会」において、白濁物質の流出抑制対策として、利水放流設備取水口前面（湖底）に「汚濁防止膜」を設置すること、また利水放流設備放水口下流に「大型土のう」を設置することが確認されました。

つきましては、「汚濁防止膜」の設置について、以下のとおり現場説明会を開催しますので、お知らせします。

- 日時：12月10日9時集合
- 集合場所：牧尾管理所駐車場（長野県木曾郡木曾町三岳7696番地の1）
- なお、天候等の状況により、上記予定が変更となる場合があります。
- 現場説明会に参加される方は、12月9日17時までに問合せ先にご連絡ください。

※水質結果については、愛知用水総合管理所ホームページに公表しています。

平成26年12月8日



独立行政法人 水資源機構 中部支社

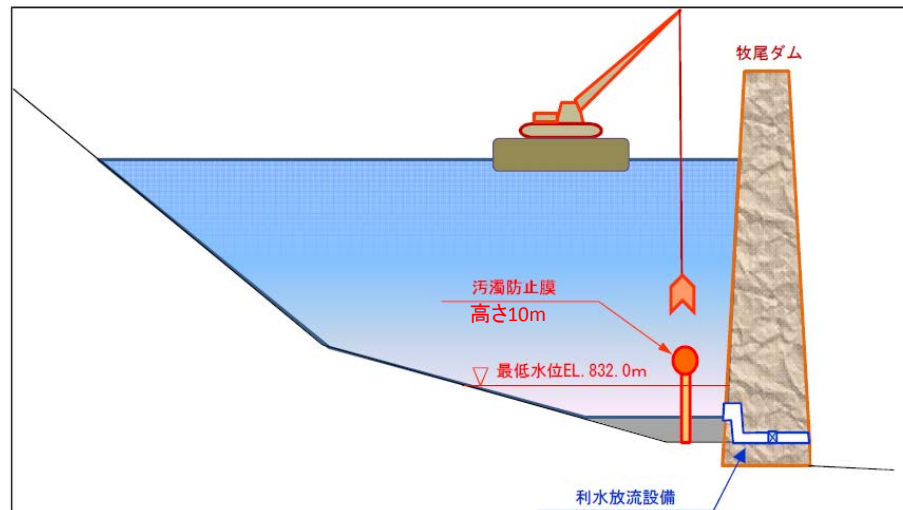
発表記者クラブ

中部地方整備局記者クラブ、愛知県政記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、第二県政記者クラブ（三重県）、信濃毎日新聞木曾支局、中日新聞木曾通信局、市民タイムズ木曾支局、松本平タウン情報、長野朝日放送

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 中部支社 総務課長 石井、課長補佐 高橋
住 所：愛知県名古屋市中区三の丸1-2-1
電 話：052（231）7541（代）

汚濁防止膜設置イメージ図



汚濁防止膜設置工事の状況



12月15日～18日の試験放流の結果

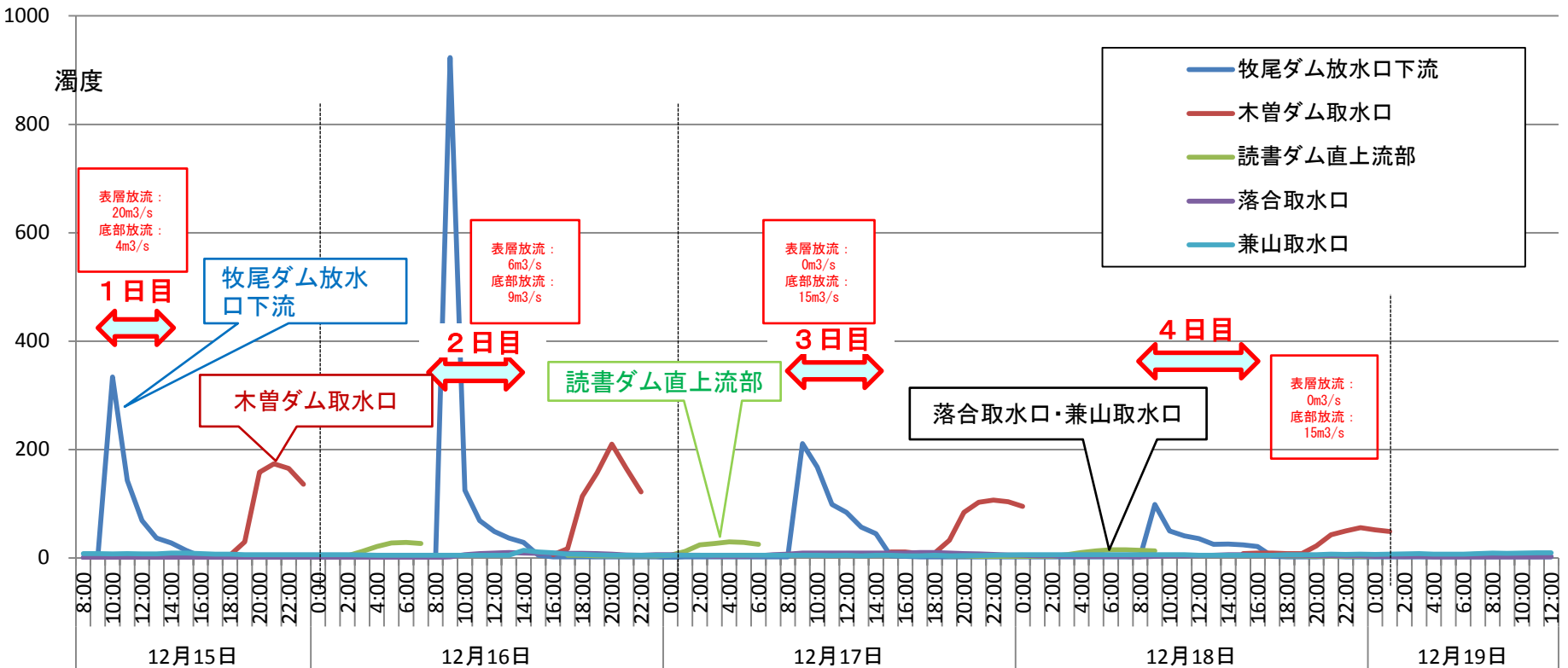
- ◇ 汚濁防止膜の設置後、12月15日～18日の間において、試験放流を実施。
- ◇ 試験放流では、利水放流設備（ダム底層）からの放流量を徐々に増加させ、下流河川の水質の状況を調査。

試験放流実施	利水放流設備放流 (m ³ /s) (底部からの放流)	洪水吐ゲート放流 (m ³ /s) (表層からの放流)	放流時間	備考
12月15日	4.0	20.0	9:00～14:00	
12月16日	4.0→9.0	20.0→6.0	8:00～14:00	
12月17日	5.0→15.0	15.0→0.0	8:00～14.00	
12月18日	5.0→15.0	0.0	8:00～16:00	

12月15日～18日の試験放流の主な結果と今後の予定

- ◇ 濁度については、汚濁防止膜の効果により牧尾ダム下流地点において、時間の経過と共に**急速に低減**した。
- ◇ 牧尾ダムの放流水は木曾川本川に位置する読書ダムまで約20時間程度、落合ダムまで約30時間程度で到達したものと推定できる。岐阜県が水道水の取水を行っている落合ダムの濁度は最大でも10程度（※）であり、**影響は小さかった**。また、兼山ダム地点では、支川流入等により希釈され、**影響が明確に確認できなかった**。
- ◇ 水素イオン濃度（pH）については、木曾ダム、読書ダム、落合ダムにおいて、pH7.0程度で推移しており、木曾川本川での変化はほとんどなかった。
- ◇ 12月26日から利水放流設備を用いた**貯水池運用に移行**する予定。なお、関係機関においては、今後も週1回程度の**定期的な監視を継続**する。

（※）濁度10は環境基準値の定められているSS(浮遊物質量)に換算すると6mg/L程度であり、環境基準値の25mg/Lを大きく下回る。また、12月16日早朝より木曾川流域では降雨があり、この影響も含まれているものと推察される。



試験放流期間中の下流河川の状況（1）

丸山ダム：12月19日



兼山ダム：12月19日



木曾川と飛騨川の合流地点：12月19日



今渡ダム下流：12月19日



